

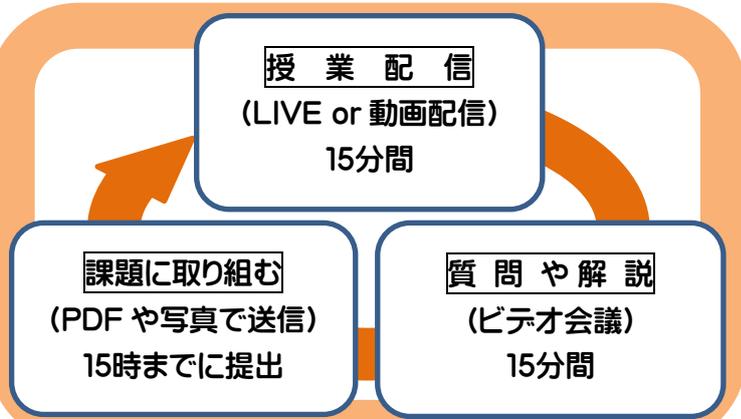
# 天津日本人学校におけるオンライン授業の実施について

令和2年5月13日

## 1. 天津日本人学校におけるオンライン授業の概要

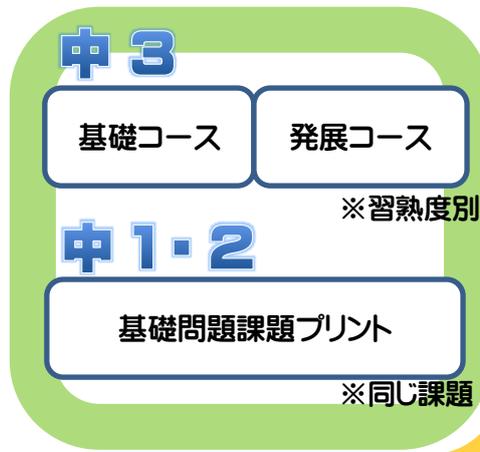
### ONLINE 授業「天津モデル」

授業サイクル(30分の授業+課題提出)全学年



※全員の課題提出を徹底。

中学部数学補習



#### 基本的な考え方

- ・天津にいても日本にいても、同じ授業を受けることができるようにする。
- ・兄弟姉妹のいる家庭にデバイスが1つしかなくても、授業を受けることができるよう、時間をずらす。
- ・あらかじめ録画した動画の配信や、授業のLIVE配信（リアルタイムの一方向の配信）を用いて授業の視聴をし、ビデオ会議機能（双方向でのやりとり）は質問や解説に限定して使用するという工夫をし、大勢の児童生徒に対する授業でも通信ができるだけ途切れないようにしている。
- ・課題提出やビデオ会議の様子で学習内容を把握し、的確な学習評価をできるようにする。

#### (1) 授業の概要

①事前に教員がビデオ会議アプリ DingTalk（※1）に授業動画を配信。児童生徒はその動画を視聴する。もしくはDingTalkでのLIVE配信（リアルタイムで教員が授業をしている動画を配信）を視聴する。

なお、LIVE配信時には、児童・生徒の誰が視聴しているかを確認できる。また、視聴している児童・

生徒からもメッセージとしてコメントを送って、教員とのやりとりができる。

- ②DingTalk を使った双方向での質問や解説
- ③授業後に DingTalk に配信される課題の提出の流れで授業を実施している。

上記に加え、中学部の生徒に対して数学の補習を行っている（※2）。

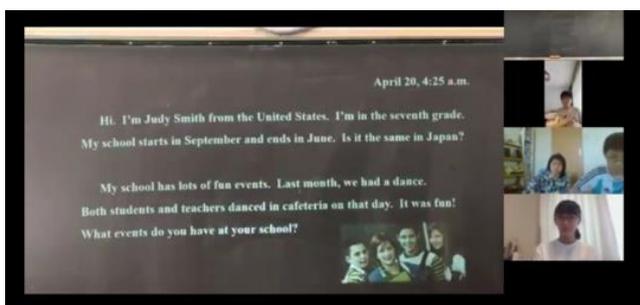
（※1）中国のアリババという IT 企業が開発したビデオ会議アプリ

（※2）DingTalk を用いて課題を配布（中1・2）と DingTalk で課題を配布した後、双方向のビデオ会議機能を用いて質問や解説を行う（中3）補習を実施。

## （2）具体的な授業の進め方

### 1. 授業配信

- ① 授業配信は、LIVE 配信もしくは作成した動画を配信する。
- ② 授業の特性に応じて（英語等の対話的な学習がメインのもの）、動画の配信ではなく、ビデオ会議機能を用いて行う。



#### 【ビデオ会議を基本的に行わない理由】

- ・参加人数によっては不安定になり、ストップしたり、音声途切れたりすることがある。

### 2. 質問や解説

- ① DingTalk を用いて、授業動画配信後に質問や疑問を受け付ける。
- ② LIVE 配信で、質問や疑問を解決できるように解説を行う（LIVE 機能で配信すると動画として記録されるため、児童・生徒が後から見直すことが可能になる）
- ③ 授業内容により、ビデオ会議で話し合いなどの活動を行う。



### 3. 課題に取り組む

- ① 授業後に課題を配信（PDF 等）し、取り組む時間を設定する。
- ② 提出期限を 15 時（中国時間、日本との時差：+1 時間）とし、学習状況を把握する。
- ③ 課題は、17 時（中国時間）までに返却し修正なども行う。



### （3）成果

#### ①総論

- ・ DingTalk を使用することにより、日本と中国のそれぞれの場所にいながら学校と子どもでつながることができた。

#### ②児童生徒

- ・ 子どもが周りの環境を気にせず、自分のペースで学習を進めることができた。
- ・ DingTalk での配信により、大きな容量の動画が配信できるようになった（30 分くらいでも可）ため、内容をより拡大して行えるようになった。
- ・ LIVE 配信であっても、動画が記録されるため、授業や解説、質疑応答した動画を、児童生徒は後から見直すことができる。

#### ③学校

- ・ 同じ場所に動画も課題も連絡も配信することができ、学校側の手間も少なくなった。
- ・ 課題の提出もそのまま DingTalk 上で行うことができ、課題チェックや修正なども簡単に実施することができるようになった。

#### ④教員

- ・ 授業動画の時間がおおよそ 15 分間と短い間であるため、授業内容をより厳選して行う必要があるが、授業の要点を確認することができ、教員の授業力向上につながった。
- ・ 教員の ICT 機器を使用する能力が向上した。
- ・ 必然と教員同士が授業を見合うようになるため、互いに学び合いながら学校全体としての授業力

向上にもつながった。

#### ④保護者

- ・保護者が子どもの学習状況を把握することができた。
- ・同じ場所に動画も課題も連絡も配信することができ、保護者も受け取りやすくなり、連絡ミス等が減少した。

### (4) 課題

#### ①機器

- ・端末が1台しかない家庭があり、兄弟姉妹が重ならないように時間割を調整しているため、学年ごとに開きがあり、待ち時間が長くなってしまう。  
(令和2年4月20日段階でデジタル機器を所有する家庭の割合：86.6%)
- ・学校、家庭の双方のWi-Fi環境の問題により、接続トラブルが多い。
- ・DingTalkの「ライブ配信」機能は中国の別のアプリ「Alipay」での認証が必要で、日本で登録できないため、日本での勤務の教員はその機能を制限されてしまう。

#### ②学習指導

- ・原則として動画の配信であるため授業は一方方向となり、双方向のやり取りは質問時間に限られる。
- ・評価する材料が基本的に提出された課題プリントになる為、評価の観点に偏りができてしまう。
- ・技能4教科での実施が難しく、1人でできる運動に限られたり、道具がそろわなかったりするため、かなり内容が制限されてしまう。
- ・教員のICT活用の技能により動画の作成時間や配信内容に差が生まれやすい面もある。  
(研修を行ったり、教員間でサポートし合ったりして継続ができています。)

#### ③生活指導

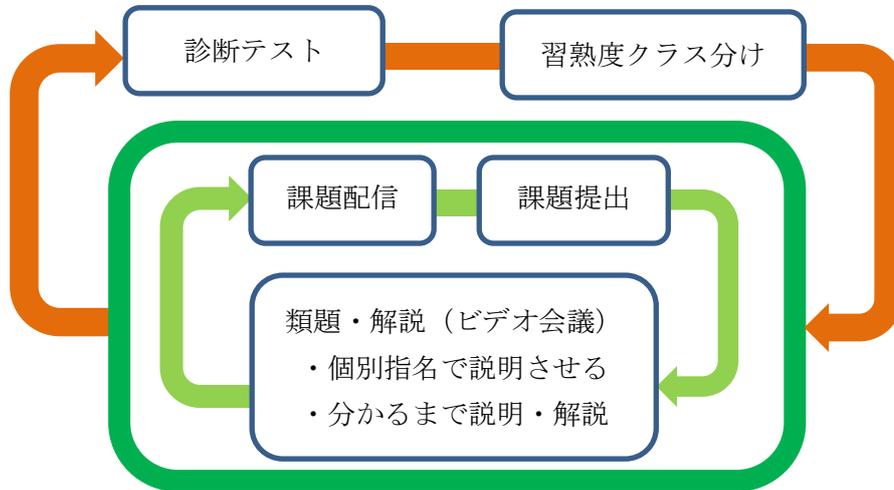
- ・家庭の責任でICT機器を管理してもらうため、SNS間のトラブルが起きてしまう。
- ・チャット型のアプリであるため、児童・生徒でグループを作り、トラブルが起きることもあり、指導を行った。情報モラル教育のさらなる指導が必要。(アプリでの人との関わり方、使い方など)

### (5) 今後の予定

- ・現在、授業動画は、①あらかじめ教員が作成した授業動画の配信、②LIVEによる授業の配信の2種類を実施。また、中学部は、人数が少なく通信状況の問題が発生しにくいいため、ビデオ通話機能(双方向のLIVE)を利用して、双方向での授業を実施。
- ・今後は教科の特性に応じて、①動画配信、②LIVE授業、③ビデオ通話の3つの方法を使い分け、柔軟に対応していく必要があると考えている。
- ・6月からは実技を伴う4教科の授業も行います。
- ・今後、オンライン授業について、日本と中国に児童生徒や教員がいる状況での取組方法や、教科の特性に応じた配信方法等について、校内研修を行う予定。

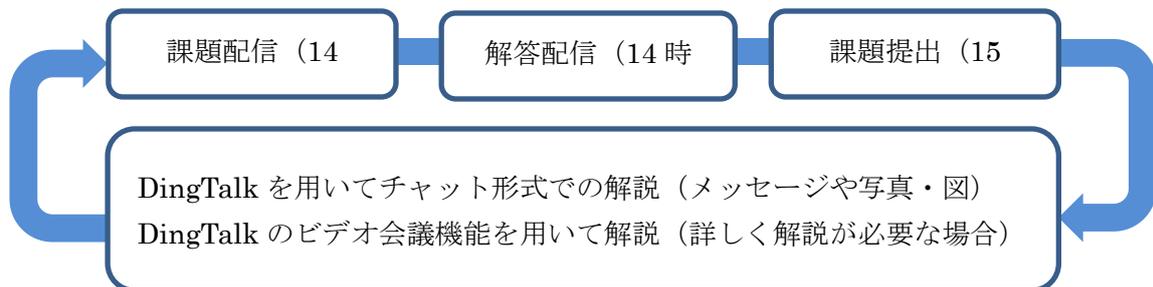
## 2. 中学部の数学補習

### (1) 中学部 3 年生の補習



- ・ 復習する单元ごとに診断テストを行い、習熟度別のクラス分けを行う。
- ・ ビデオ会議を行った後に次の課題を配信（基本コース 9 時、応用コース 14 時半）。
- ・ 課題は 16 時までに提出し、次の日に解説をビデオ会議で行う。
- ・ 解説のビデオ会議では、前日の課題の類題を出して個別に指名して説明をさせたり、分かるまで解説をしたりして、生徒の状況把握と理解の徹底が図れるようにしている。
- ・ 課題に質問したいことを書く欄を用意しておき、提出された課題を見て、適宜解説を個別に返す。
- ・ 1 つの单元が終わるまでは課題→解説を繰り返し行う。
- ・ 生徒が間違えた問題は記録しておき、後日間違えた問題を再配信して定着の確認と把握をしている。

### (2) 中学部 1・2 年生の補習



- ・ 毎日 14 時に課題を配信し、14 時半にその解答を配信する。
- ・ 答え合わせをした後、15 時に課題を提出する。
- ・ 課題に質問したいことを書く欄を用意しておき、提出された課題を見て、適宜解説を個別に返す。
- ・ 基本的には DingTalk のチャット機能を用いて解説や図や写真で解説を行うが、必要に応じてビデオ会議機能を用いて解説を行う。
- ・ 生徒が間違えた問題は記録しておき、後日間違えた問題を再配信して定着の確認と把握をしている。

### (3) 中学部の数学補習の成果と課題

#### 【成果】

- ・習熟度別にすることにより、基礎クラスは小学生の内容から基本的な問題、応用クラスは基礎的な内容を踏まえた問題を扱うことができ、また、個々の能力に応じた指導をすることが可能となった。
- ・課題や補習等で出た疑問点や質問について、個別に、かつ丁寧に対応することができるので、個々の学力向上に大きくつながると考えられる。
- ・オンラインで課題を生徒から送ってもらうことで画像がデータとして残る。その内容から、個々の課題の正答率や、誤答をエクセルでデータ化することにより、その後、課題で間違えた問題を何度も繰り返し解くことができる。
- ・中学3年は、小学校算数、中学校数学の系統的な指導を行うことにより、今までの学習の意味や、高校、大学へのつながりを意識した学習を行い、意欲的に取り組めるようになった。
- ・ほとんどの生徒は実家でビデオ会議を行っている。そのためリラックスした状態で授業を受けることができ、それにより自分の考え方を、のびのびと発言できていると思われる。
- ・最初に習熟度分けテストを行い、最終日に、基礎クラスでは、習熟度分けテストの類題をまとめた課題、応用クラスでは、その単元の入試問題を課題として出し、定着度を見取っている。現在、扱った単元では、各生徒の正答率の向上が確認できた。

#### 【課題】

- ・生徒が保護者の機器を使用している場合、保護者の方々は行動できる時間が制限されてしまう。
- ・ネット環境によっては、音が聞こえなくなったり、声が反映されなくなったりすることがある。
- ・補習の解説時間を20分と設定しているが、タイムラグや、ネット環境により、時間を固定することができず、30分ほどかかることがある。
- ・記述を要する問題や、証明、説明を伴う問題では、画像を送ってもらって指導を行うため、どうしても時間がかかってしまう。
- ・問題演習の際、黒板やデータをそれぞれの機器で見ながらノートに解くため、紙に印刷して配布するよりも解きにくく、さらには長時間画面を見続けるため、目の負担が懸念される。
- ・短期集中的に単元を扱うため、その期間での学力の伸びは見られるが、長期的なスパンで見た時に、学力の定着、向上に向けてさらなる反復が必要になると思われる。

## 2. 「天津モデル」確立までの流れ

(経緯)

中国では、中央政府の指示により全国一斉に全ての学校が2月3日から休校となり、公立学校では2月17日からのオンラインでの学習が始まることとなった。

本校でも、休校期間が長引くことが想定されたため、児童生徒の学習支援を実施することとなった。

### (1) 導 入 時

#### ① SNS アプリ (WeChat) による動画配信 (2月17日~2月20日) とホームページに課題配信

(使用ツール) WeChat という SNS アプリ (日本の LINE に相当)

○メリット (以下「○」で表記) 中国では、ほとんどの家庭が WeChat を利用しているため、導入にあたり保護者の負担が少ない。

(概要)

- ・学校から各家庭に動画を配信
  
- ・児童生徒はその動画を視聴
  - 授業の展開に合わせて、「導入」「解説とヒント」「まとめ」の3つの動画に分けて配信することで、学習の流れをつくることができた。
  - 動画配信で行ったため、何度も繰り返し見ることができて学習のサポートになった。
  
- ・学校のホームページに掲載した課題をダウンロードし、課題を解く。ホームページに掲載された解答を見て自己採点を行う。
  - ホームページ上に課題のプリント等を配信したことで、保護者が簡単に見ることができた。(セキュリティ対策として、配信内容にはパスワードを設定し、保護者と共有した)

(課題)

- ▲WeChat は動画を 50MB までしか送信できないため、長い動画 (2分以上くらい) は配信できないトラブルが発生した。
- ▲WeChat に1日に送信できる容量が決まっているため、1つの映像の容量が小さくても配信できない場合もあり、安定して配信することができなかった。
- ▲短い動画をいくつか配信した際、配信の順番が勝手に入れ替わり、学習内容が分かり辛くなることがあった。

#### ② Yahoo!box を利用した動画の配信 (2月20日~2月末)

(使用ツール) Yahoo!box

○WeChat での配信が安定しないため、Yahoo!box の公開機能を使った動画の配信を行うことで安定して閲覧できるようになった。

(概要)

- ・ Yahoo!box に、授業動画を保存。
- ・ 保護者にパスワードを配布。児童生徒は、Yahoo!box にアクセスし、そのパスワードを使って保存されている動画を視聴。
  - 無料で使える 5 GB を利用して、各学年のフォルダを作って配信することで、必要な動画を簡単に見つけられるようになった。
- ・ 学校のホームページ上に掲載されている課題を解く。
  - 動画配信と同時に、ホームページ上に PDF で課題（プリント）を毎日配信することで、学習量を確保することができた。

(課題)

- ▲家庭の Wi-Fi 状況などにより、Yahoo!box も、ダウンロードができなかったり、画像が止まってしまったりするなど、上手く受信できないこともあった。
- ▲容量に限度があるため、長い動画を Yahoo!box に保存して配信し続けることが困難（以前に配信した動画を削除しなければならないなど）なため、短い時間で何をどのように伝えと子ども達に分かりやすくなるのか内容の精選をすることが難しいという面があった。また、動画を圧縮するなどの技能も必要であった。

### ③ DingTalk のビデオ会議機能を利用した質問タイムの実施（2月18日～2月末）

(使用ツール)

- ・ DingTalk（ビデオ会議アプリ）
  - DingTalk には 200 名までの同時ビデオ会議参加機能があるため、児童生徒からの質問に答えるため、双方向でやりとりを行うために導入した。

(概要)

- ・ 学年ごと（本校は 1 学年 1 クラス）に 1 日 1 時間の質問タイムを設定し、あらかじめ学校ホームページに掲載。
  - 学年毎に時間をずらし、兄弟姉妹がいる家庭で 1 台しかデバイスがないところであっても対応できるようにした。
- ・ 質問ある児童・生徒は、決められた時間に DingTalk を使ってアクセスし、担任教員に対して配信された動画や課題について、分からなかったところを質問する。

○同じような質問の児童・生徒は同時にビデオ会議に参加させ、理解できた児童・生徒から会議を抜けていくこととした。そうすることで、児童・生徒の状況の把握ができ、理解できるまで解説をすることができた。普段の授業では質問をあまりしない児童・生徒でもビデオ会議に参加することで、理解を深めることができた。

・ 中学部については、教科担任制であるが、学級担任が質問を受け付け、教科担任に連絡し、質問タイムに教科担任もビデオ会議に参加してもらい説明や解説を行った。

○ 2月は DingTalk のビデオ会議機能を利用して質問タイムを実施することで、会話をしながら説明したり、黒板に書きながら解説したりするなど、必要な解説をオンタイムで行うことができ、理解を深めることができた。

○ 画面越しではあるが、顔を合わせて話すことで安心感が得られ、教員側も児童・生徒側もモチベーションの向上につながった。

(課題)

▲ Wi-Fi 等の状況により、通信が途中でとぎれたり、もともとつながらなかったりして、安定した配信が難しい時もあった。

▲ DingTalk は、前述の WeChat と異なり、日常的にあまり使用されていないアプリのため、きちんとインストールして導入することができるかの検証から行う必要があった。

【テストした内容】

- A) 同時に何人繋ぐことができるか。
- B) 日本と中国でも繋ぐことができるか。
- C) どれくらいの時間繋ぐことができるか。
- D) 途中で切れてしまった時に再度繋ぎ直すことができるか。
- E) どれくらいの容量のファイルを送信することができるか。
- F) 学級のグループをどれだけ作ることができるか。
- G) グループへの参加方法はどのようなのか。

【結果より】

・それぞれのテストで安定して動画を配信することができる（中国内でも日本にも）ことが確認できたため、ホームページや、WeChat を利用して DingTalk の登録方法を周知した。（個別に連絡をしないと導入できない等のトラブルもあり、全員が参加するまでに時間がかかった。）

#### ④ DingTalk のビデオ会議機能を用いた朝の会を実施。（3月～）

(使用ツール)

- ・ DingTalk (ビデオ会議アプリ)

(概要)

- ・ 毎日10分間の朝の会をビデオ会議アプリを使って実施。

- ・兄弟姉妹がいる家庭でも1台のデバイスで対応できるよう学年によって時間をずらす。
  - 朝の会を同時に行うことにより、1日のスタートを日本・天津で差をなくし、朝の生活リズムをつくることができた。
  - 顔を合わせることで所属感や安心感があつた。
- (保護者からも好評で、朝の会のおかげで子どもに正しいリズムを取り戻せたとの意見もあつた。)

(課題)

- ▲Wi-Fiなどの通信状況により、朝の会に参加できない等のトラブルは依然として解消されない。
- (その後に個別で連絡することで問題はないが、同時につながりにくい時がある。)

## (2) 確立する過程での成果と課題

### ○成果

- ・未完成的な形だったが、多くの児童・生徒が動画を見たり課題に取り組んだりして、未履修を解消することができた。
- ・どのような形で配信すると、送り手も受け手もよりよいものになるかを考えることができた。
- ・ポイントを絞って配信をするため、教員の授業研究になった。
- ・質問タイムでビデオ会議機能を利用したため、どのように双方向のオンライン授業ができるかの検討をすることができた。
- ・朝の会や質問タイムで顔を合わせて活動することができ、教員も児童・生徒も元気になることができた。

### ●課題

- ・WeChatやYahoo!boxでは、容量の問題や、受信の問題など使うツールにより安定した配信ができなかった。
- ・DingTalkも、多くの児童・生徒と同時の接続すると上手く全員が入れない等の問題が起きた。
- ・1つの動画を作成するにも時間がかかり、1日に配信できる授業を増やすことが難しい。
- ・DingTalkが中国のアプリであるため、基本的な操作方法のヘルプ等が中国語で配信される。よりよい機能があつたとしても使いこなすことが初めは難しい。

## 4 今後について

- ・保護者からの期待も高く、参加率も非常に高いため、継続できる形で続けていく。
- ・天津の学校が再開された時に、登校している児童・生徒と日本の家庭で学習する児童・生徒との環境の違いによる差を考慮しながら、どのように継続していくのが良いかを検討する必要がある。
- ・家庭のデバイスが1台であることが多く、兄弟姉妹がいる家庭での受信に課題がある。現在は時間をずらして配信をしているが、学校が再開されたときに、天津・日本両方の家庭があまり困ることなく学習できる工夫が必要である。
- ・現在、課題提出による評価が中心であるため、評価内容が偏っているという現状がある。評価の観点を広げられるような方策を実施していく必要がある。

その他 ICT 機器を使用することでの成果

### 【児童・生徒】

- ・動画配信やLIVE配信では、後で授業そのものを見直すことができ（再度見直して課題に取り組んでいる児童・生徒が多い）、内容を理解しようと努力する姿が増えている。→普段授業をしていても、もう一度解説を求められることは少ないが、実際はそういう欲求があったということが分かった。
- ・宿題を家庭で行う習慣が身につかず、宿題を忘れやすい児童・生徒でも、課題提出期限を守って提出できていることが多く、家庭で学習するという習慣が身につき始めている。
- ・課題提出までの時間を自分のペースで進められるため、計画的に学習を進めることができるようになってきている。
- ・中学生では確実に行っていないと思われる家庭での音読を課題提出（音声や動画）させることで、家庭でも行わせることができるようになった。

### 【教員】

- ・毎時間確実に課題の提出がある（課題以外でその授業の成果をみることが難しい）ため、通常時よりも評価する材料が多いように感じられる。普段の授業では、毎時間一人ひとり全員が発言できるわけではないし、全員の考えを確実に把握できているわけではないが、課題提出が確実に行われるため、全員の状況を把握することができるようになった。また、提出された課題がずっと手もとに残るため、見返すことも可能になった。
- ・15分ほどの時間で1つの学習内容を伝えなければならないため、ポイントを精選した学習内容になるよう、教員側の事前準備が普段よりも質が高くなっている。
- ・ビデオ会議機能を用いた授業の際に、同時にLIVE機能で配信もしているため、児童・生徒の発言を記録することにもつながり、その発言内容を用いて多様な評価をすることに生かすことが可能になった。

### 【児童・生徒と教員双方】

- ・ICT 機器を活用する機会が否が応でもあるため、教員の ICT 活用能力が高まっている。普段の授業だと無理やり使っている感じになっているが、この機会があったことで活用する意識が高まっている。また、教員のみならず、児童・生徒側にも活用してよりよく課題に取り組もうとしている姿が見られ、通常時よりも ICT 活用能力は確実に向上している。

(参考資料)

1. WeChat による動画配信授業について
2. 動画配信の保護者向け資料
3. ビデオ会議機能を利用した配信（質問タイム）の時間割
4. 3 月以降のオンライン授業の進め方について
5. DingTalk 配信について保護者様向け資料
6. 「DingTalk」の設定の仕方
7. 担任、教科担任に個別にメッセージを送る方法
8. オンライン授業の時間割

## 動画配信授業について

授業の導入・ヒント・まとめ等、授業の中でポイントになる場所をしぼって動画に撮り、配信します。

### 【例】算数の授業動画

#### ① 授業の導入



○問題文を示し、立式の方法について問いかけ、見通しをもたせます。

#### ② 立式の確かめ



○ことばの式や線分などを用いて立式の確かめを行う様子を解説します。

#### ③ 途中の考え方のヒント



○式の答えを導く際にヒントとなる動画を用意し、考え方の参考にします。

#### ④ 式の答えと問題の答えを解説

このように、ポイントとなる部分をピックアップした動画（それぞれ1分前後）をいくつか撮影し、配信します。動画を見た時の質問は他のAPPを用いて個人的に解決します。

## 学習用教材（動画）配信のお知らせ

標記の件につきまして、下記の通りお知らせします。ご理解、ご協力のほどよろしくお願い致します。

### 記

- 1 目的 (動画) 2月中に行えない授業について動画を用いて解説する。  
(LIVE) 動画や学習課題についての疑問を解決する。
- 2 日時 (動画) 令和2年2月17日(月) ～ 2月26日(水)  
(LIVE) 令和2年2月18日(火) ～ 2月28日(金)
- 3 対象 小学部1年～中学部2年
- 4 配信方法 (動画) WeChatにて配信  
(LIVE) DingTalk(钉钉)にてビデオ会議機能を利用し配信  
※ DingTalkの設定方法やグループ作成については、別途お知らせします。(パスワードは以前と同じです)
- 5 留意事項 (1) 2週間の間に計画的に動画を配信します。配信された日に動画を視聴し、学習に取り組んでください。  
(2) ビデオ会議機能を利用して質問を受け付けますので、その時間までに質問をまとめておいてください。  
(LIVE 時間は別途お知らせします)  
(3) 天津日本人学校の児童生徒専用で動画を配信します。  
そのため、以下のことは禁止致します。

- ① 動画を複製すること。
  - ② 動画を転送・拡散すること。
  - ③ 学習以外の目的で使用する事。

※ 禁止事項が守れなかった場合は、動画配信の停止措置や、場合によっては理事会に諮り対応を決めさせていただきます。
- 6 配信確認 2月13日(木)にビデオ会議機能の確認を行います。会議開始時間は以下の通りになります。APPが使えるようにしておいてください。

1年	9:00	2年	9:30
3年	9:30	4年	10:00
5年	11:00	6年	10:00
中1	10:30	中2	10:30



## 3月以降のオンライン授業の進め方について

### 【目的】

現在本校に籍がある児童生徒（体験入学も含む）の学習・学力保障

### 【期間】

令和2年3月2日（月）～3月13日（金）

### 【内容について】

- DingTalk 上に課題を上げ学習を補充 ⇒その後、HPにも掲載（土方）
- 子ども達から個別に取り組んだ課題の写真を送ってもらい、採点やコメントをし DingTalk 上で個別に返信する（担任・教科担）
- 教科担任は担任に前の日までに課題を提出⇒担任が DingTalk 上にまとめてあげる  
※課題のデータは PDF であげる
- 一日一つは必ず課題を出す（教科は問わない）  
※各担任と教科担当は DingTalk 上にグループを作り、スケジュールや課題を共有する

### 【配信教材について】

- ワークシート、復習プリントなど教科の実情に応じたものを配信する  
（書き込めたり、ノートに写したりできるもの）
- 必要に応じて DingTalk 上でリアルタイムの解説を行う
- 授業動画を作成しての全体への配信は行わない  
※ただし、教材として動画を使用して配信するのはよい

### 【配信時間】

- 朝の会：朝8時から約10分間（学年によって時間を変える）
- 課題配信：朝の会までに DingTalk 上にスケジュールと共に配信
- 課題提出時間：当日の9時～15時
- 質問時間：当日の9時～17時
- ライブ配信：こちらでスケジュール設定

### 【その他】

- 今後は子ども達とのオンライン授業は DingTalk に移行していく（HPは補助的に活用）
- 本校をすでに退学している児童生徒については、サポートは行わない（DingTalkからは削除）

【具体的な一日の流れ】

時間	教員の動き
朝の会までに	・その日の課題とライブ配信のスケジュールを DingTalk 上に配信 (担任)
8時～	・各学級での朝の会 (担任)
9時～15時	・質問や課題が来れば、随時答えていく。(担任・教科担) ・明日以降のスケジュール・課題作成 (担任・教科担) ・その日の課題をホームページに掲載 (土方)
17時	・DingTalk 上での児童生徒とのやり取りを終了。 ・教科担任は次の日の課題とスケジュールを担当へ送信 (DingTalk 上にファイルを送信)

【2月24日現在の児童生徒の動静】

※本校を退学せず体験入学にも言っていない児童生徒

学年	人数
1年生	18名
2年生	10名
3年生	3名
4年生	10名
5年生	9名
6年生	6名
中学1年生	8名
中学2年生	7名
中学3年生	3名

天津日本人学校保護者様

## DingTalk 配信について

13日（木）の配信確認ありがとうございました。久しぶりに子ども達の顔を見ることができ、職員一同明るい気持ちになりました。

さて、DingTalk の使い方について、再度確認をしておきます。

- 1 動画や課題についての疑問・質問に答えるツールとして活用します。  
(必要な方はご利用ください)

→ 質問は事前に DingTalk にメッセージで送信してください。**質問は具体的**にお願いします。  
(例)・〇日に配信された(教科)の動画の△△の部分がわからない。  
・教科書 P. 〇〇の△△がわかりません。 など

→ 質問頂いた内容について DingTalk のビデオ会議機能を用いて個別にお答えします。

◎**前日17時(中国時間)まで**に DingTalk に送信した質問について、次の日に答えていきます。(すぐに解答できない場合もあります。ご理解ください。)

◎当日の**朝8時30分までには、その日のスケジュール**を DingTalk に配信します。確認いただき、その時間に準備をお願いします。

◎当日のビデオ会議を始める時間と終わる時間に**始まりと終わりが分かるようにメッセージ**を送ります。

- ・質問の内容によっては1対1でお答えする場合と、1対複数でお答えする場合があります。
- ・教科によっては、教科担任がお答えする場合があります。
- ・質問が無い場合は、指定時間(ビデオ会議時間)内でも終了する場合があります。

- 2 学習に関わる内容以外は、学校に直接質問をしていただくか、学校の E メールに送信するようお願いします。

- 3 第1回目の配信状況確認の結果

→ 13日(木)の「DingTalk」でのビデオ会議機能を利用した配信確認を行いました。中国・日本間でもスムーズに通話することができました。ご協力ありがとうございました。

## 「DingTalk」の設定の仕方



APPstore で「Dingtalk」を選択してダウンロード（中国の APP では『钉钉』）



次に電話番号を登録します。このあとショートメールに番号が送られてきます。送られてきた番号を入力してください。

次にパスワードを入力します。初めは、自分で決めます。なんでも OK！  
今後入力することがあるかもしれませんので、忘れないようにお願いします。

このあと、名前、職業など、いろいろと設定するような画面になりますが、これは何でもいいのかと思います。あとで設定をし直すことも可能です。

一応、このあとオンラインでのビデオ会議機能の利用を行うことを目的としていますので、名前は分かりやすく入力いただけるとありがたいです。

（ニックネームだと誰か分かりません。せめて苗字だけでもお願いします）



初めはこのページになるかもしれませんが。2画面になった場合は、左側を見てください。  
下の部分にある5つの選択肢の中の「連絡先」をタップしてください。



- 1 「連絡先」ページの右上の人のシルエットに+マークをタップします。
  - 2 右側の「チームに参加する」をタップします。
  - 3 「チーム ID を検索して参加する」をタップします。
  - 4 「チームを入力してください」と薄い字で書かれた所をタップし、下記の自分の学年の ID を入力してください。
  - 5 その後、担任が承認しますので、お待ちください。
- ※ 複数の学年にお子さんがある場合は、それぞれの学年に参加してください。

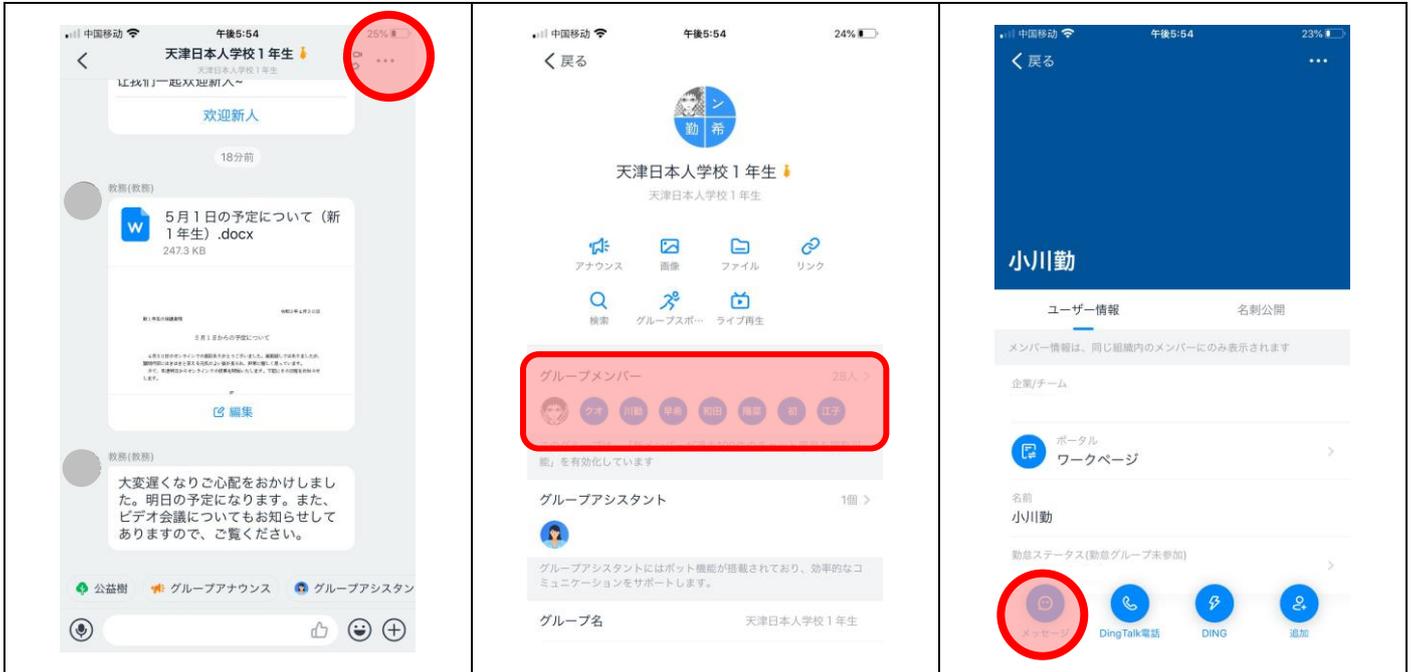
## 担任、教科担任に個別にメッセージを送る方法

「天津日本人学校1年生」のグループを開いた状態でメッセージや写真を送ると、グループの全員に送られてしまいますので、ご注意ください。もし間違っても送信してしまった場合は、メッセージを長押し→撤回で取り消すことができます。



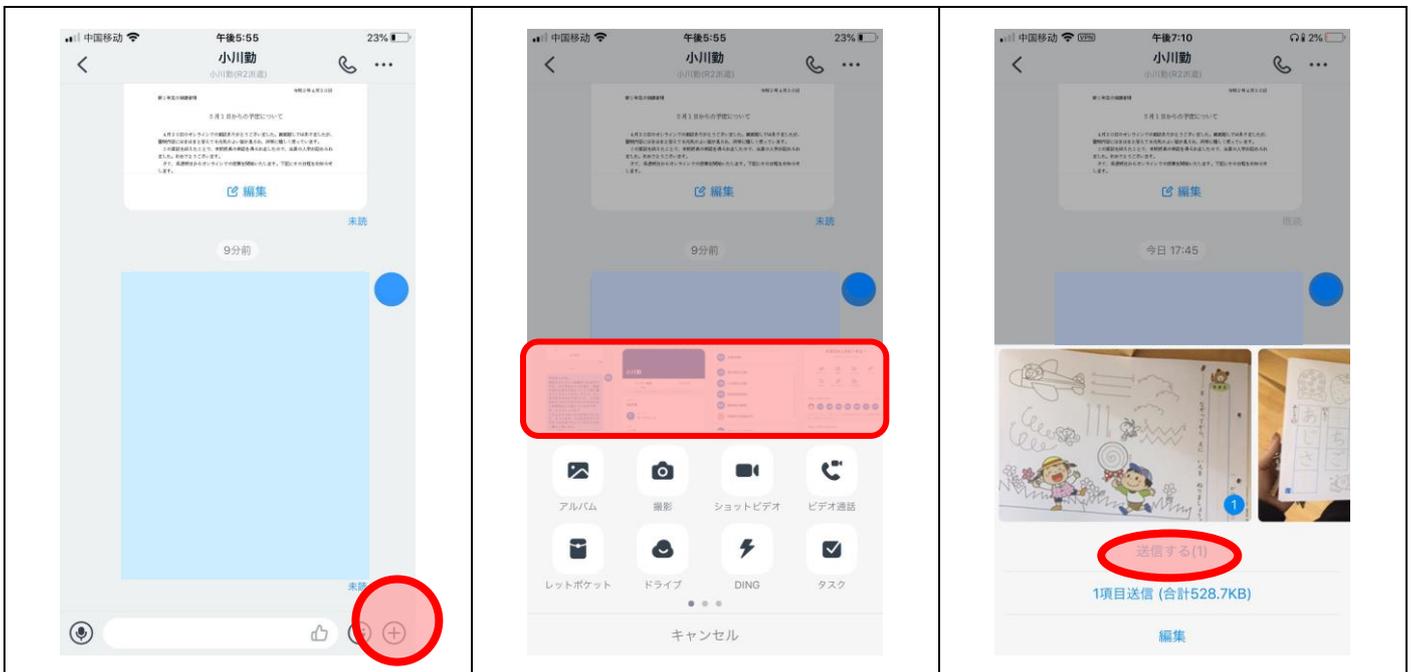
### ○個別にメッセージのやりとりを行う

- ①右上の「・・・」をタップ  
②「グループメンバー」から担任  
③「メッセージ」をタップし、  
や教科担任をタップ  
メッセージを送る



### ○課題を送る

- ①提出物の写真を撮る  
②DingTalkを開いて、  
右下の「+」をタップ  
③写真を選んでタップ  
④「送信する」をタップ



8:10	2・3年 朝の会
8:20	4年 朝の会
8:30	5・中1年 朝の会
8:40	6年 朝の会
8:50	中2・中3 朝の会

## 1日目

9:00	小2 国語 (村田)	小3 国語 (神谷)
9:15	中3 理科 (清水)	
9:30	小5 算数 (明内)	中1 国語 (披田)
9:45	小6 国語 (和田)	
10:00	小4 社会 (土方)	
10:15	中1 理科 (清水)	中3 英語 (中村)
10:30	小6 算数 (鶴田)	
10:45	小3 理科 (和田)	中2 数学 (明内)
11:00	小4 国語 (小牧)	
11:15	小6 社会 (土方)	
11:30	小5 英語 (神谷)	中1 社会 (小川)
11:45	中2 英語 (中村)	中3 社会 (土方)

13:00～15:00までに課題提出

## 2日目

9:00	小2 算数 (明内)	小3 算数 (鶴田)
9:15	小5 理科 (小牧)	
9:30	中2 社会 (土方)	中3 国語 (披田)
9:45	小6 理科 (清水)	中1 英語 (中村)
10:00	小4 理科 (和田)	
10:15	小5 社会 (土方)	
10:30	中2 理科 (清水)	中3 数学 (明内)
10:45	小4 算数 (村田)	
11:00	小6 英語 (神谷)	
11:15	小3 社会 (土方)	中2 国語 (披田)
11:30	小5 国語 (小牧)	中1 数学 (鶴田)
11:45		

13:00～15:00までに課題提出